

安全教育



第36号

平成27年
2月25日発行
発行責任者
齋藤武彦

一般財団法人 横浜市安全教育振興会
〒231-0014 横浜市中区常盤町3-25 サンビル7階 電話 045-662-7835 FAX 045-662-9831

地域と連携した、学校の新たな歩み

横浜市教育委員会

教育長 岡田優子



日頃から、横浜の子どもたち一人ひとりの健やかな成長を願い、安全教育の普及振興に向け、子どもたちのために様々な取組をされている一般財団法人横浜市安全教育振興会の皆様に対し、心より感謝申し上げます。

さて、東日本大震災を経て、私たちは改めて「自助」「共助」「公助」のあり方、地域における学校の役割、子どもたちと地域の方々との関係を見つめ直しました。昨年12月に策定いたしました「第2期横浜市教育振興基本計画」（今後5年間の本市が目指す教育の基本的な方向性や具体的な施策をまとめた計画）においても、「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」を策定に向けた新たな視点の一つとし、「家庭・地域と連携した防災訓練の実施」「児童生徒による地域行事や奉仕活動等への参加」等を、具体的な事業例として挙げています。既に各学校においては、様々な取組によって地域との新たな関係を構築し始めています。

根岸中学校（磯子区）では、東日本大震災を契機に防災計画を大幅に見直し、1.2km離れた高台にある

「根岸森林公園」まで避難する訓練を行うことにしました。一昨年度からは学校近くの星の子保育園、八幡橋幼稚園の園児と、そして今年度からは、根岸小学校の児童も参加し、幼保小中合同での避難訓練を行っています。

中学生は園児の小さな手をしっかりと握りながら、自分たちの役割、自分たちにできることを考えます。園児の小さな手が中学生の心を大きく豊かにします。手と手のつながりが、心のつながり、地域とのつながりを強くしていきます。

今宿中学校（旭区）では、部活動とは別に「ボランティア活動部」が発足しました。登録は任意ですが、その数は年々増え、3年目を迎える今年度は約3割の生徒（136名）が加入しています。地域ケアプラザがリスト化した地域の祭礼や清掃活動、高齢者支援、防災訓練などの活動に生徒が参加します。活動に参加した生徒には、登録証の裏面のスタンプカードにスタンプが押されますが、何といっても最高の贈り物は地域の方からの「ありがとう」の言葉です。

地域の方々の力になっていること、期待されていることに気づく中で、地域を

大切にする心が醸成されます。

この2校の事例以外にも、小学校における地域と連携した防災訓練や宿泊の防災訓練等、地域とつながりをもった活動が多く行われ、学校と地域との関係が強まっています。

地域と連携した学校の様々な取組は、互いの距離を縮め、共助の精神によって、人々が支え合う活力ある社会を創り出します。取組を積み重ねることで互いの顔が見える関係をつくり、その関係性が子どもたちの安心・安全、そして健やかな成長へとつながります。今後も、学校の地域連携に向けた歩みを見守り、ご支援いただければ幸いです。

子どもたちの豊かな成長を支えるためには、子どもたちが地域で活躍できる場をつくることや、地域の人材を活かして学校運営を推進することなどを通して、学校と地域とのより良い関係を構築することが大切です。保護者をはじめ地域の皆様や区役所、警察等の関係機関と連携し、切れ目のない支援を行えるよう、皆様と力を合わせ、横浜の未来を拓く子どもたちを育ててまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、一般財団法人横浜市安全教育振興会のますますの御発展と御活躍を祈念し、御挨拶とさせていただきます。



安振会～親と大人の応援団～

(一財)横浜市安全教育振興会
理事長 齋藤武彦



昨年の11月21日、群馬大学大学院教授の片田敏孝先生に安全教育講演会でご講演をいただきました。ご講演の概要を本号に掲載しておりますので、ぜひご一読ください。

片田先生はご講演の中で「大人を動かすことの難しさ」を挙げていらっしゃいました。防災の話し合いに出てこない。津波の警報が出て「逃げない」と言う。その影響を受けて、子どもたちにも危機感がほとんどない。そのような状況で、「大人はなかなか聞いてくれない。だったら子どもたちに託そう。」と先生は考えられました。東日本大震災の時の『釜石の奇跡』は、片田先生が釜石市の学校で防災教育を実践された成果です。津波から逃れるべく、中学生の子どもたちがまず逃げました。逃げる途中で小学校に声をかけて小学生と一緒に逃げ、保育園に声をかけ

て園児も一緒に逃げました。避難のゴールと考えていた介護施設も危険と判断するや、さらに高い場所へと避難し、結果として多くの命が救われたのです。

東日本大震災では、子どもを心配して保育園・幼稚園や学校に駆け付けようとした保護者の命が多く失われました。講演会の最後の方で、子どもが家庭で保護者と話し合う場面が映像で流れ、その子が親に向かってこのように言っていました。「津波が来たら、私はちゃんと逃げる。だからお父さんやお母さんも、私のことを心配しないでちゃんと逃げて。」

この言葉には、横浜市安全教育振興会という当財団の名称の中に“教育”という二文字が入っていることに通じるものがあります。今、子どもたちは、地震などの自然災害を含め、様々な危険と向き合っており、安全な環境を整えることが必要だと感じています。そのすべ

てを私たち大人がカバーし、危険から子どもたちを守っていくことは不可能です。子どもたちには自分で自分を守ることができるようになってもらいたい。その思いが当財団の名称に表されていることを、今一度確かめたいと思います。

『親の背を見て子は育つ』。最近あまり聞くことがなくなってしまったような気がします。釜石市の場合は、子どもの姿に大人が学びました。本当は、大人の姿に子どもが学んでほしいと思います。逃げなくてはいけない時に逃げる大人を見て、子どもは逃げるができるようになるのだと思います。子どもに自分の背を見せて学ばせようと頑張っている、あるいは頑張ろうとしている親や大人を応援していくことが安振会の役割の一つだと改めて感じています。

鴨志田第一小学校

地域とともに育てる防災教育の在り方

今年度本校で取り組んできたテーマは「地域とともに育てる防災教育の在り方」です。このテーマの下、今年度取り組んできた実践内容は以下の6つです。

1 小学校からはぐくむ防災教育プログラムの開発

はじめに「小学校からはぐくむ防災教育プログラムの開発」に取り組んできました。今年度作成した「命のパスポート」では、災害発生直後から10分程度経過後までを時系列で示し、その時々でどのような行動が求められているのかをわかりやすく示しました。地域防災総合訓練の防災学習の際に「学習シート」を用いて学習したことの修了証として全児童へ配布しました。

2 児童生徒参加型の防災訓練の実施

2つ目は、「児童生徒参加型の防災訓練の実施」です。本校では、中学校ブロックである、鴨志田中学校と連携して地域防災総合訓練を実施しており、本年度で3回目を迎えました。中学生の役割として、中学1年生は、投光器設置や、給水栓の動作確認を行いました。中学2年生は、生活機材設置作業や仮設



トイレの設置訓練、校内トイレ対策訓練を行いました。中学3年生は本部・安否確認の仕事として、本部設置と会場作り、避難者の受け入れや安否確認票の貼り付けが終わった避難者への案内、備品・食料品持ち出しと配布を行いました。それぞれの学年が役割を明確にして訓練に参加しています。



3 小学校5年生から地域の一員としての役割意識の育成

3つ目は「小学校5年生から地域の一員としての役割意識を育てる」です。5年生は、被災者としての来校を想定し、安否確認票の記入と地域避難場所への避難訓練を実施しました。6年生は、中学1年生とともに、体育館へ安否確認のために来校する、保護者や地域の方々を、避難場所へ誘導する訓練を実施しました。

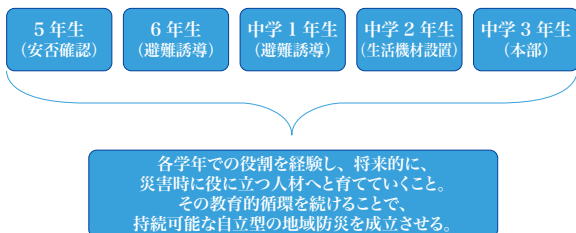
4 保護者も参加する地域防災訓練の実施

4つ目は、「保護者も参加する地域防災訓練の実施」です。地域防災総合訓練の当日は、PTAの方々にも協力していただき、手回しランタンの実施演習・説明を行っていただきました。また訓練終了後に、各家庭からPTAへ安全確認を行う「無事ですカード」の活用訓練が行われました。



5 持続可能な自立型地域防災訓練の確立

⑤ 持続可能な自立型 地域防災訓練の確立



5つ目は「持続可能な自立型地域防災訓練の確立」です。これまでの訓練の様子からもお分かりいただけるように、当該学年が決まった役割を経験し、次の学年へと進んでいくことで、将来的に鴨志田第一小学校の防災拠点に必要な役割のすべてを経験することができるようになっています。長期的な視点に立ち、このサイクルを繰り返していくことで、持続可能で自立型の地域防災を確立することができると考えています。

6 被災地域や防災先進地域の情報収集

最後に「被災地域や防災先進地域の情報収集」にも積極的に取り組みました。今年度は、東日本大震災時に釜石中学校で校長をされていた平野譲先生を鴨志田中学校へお招きし、当時のお話や防災教育について講演を行っていただきました。また、その釜石中学校へ防災教育を行っていた、群馬大学の片田敏孝先生の講演会へも地域防災拠点のメンバーで参加し、地域防災や防災教育の在り方について研鑽を深めています。



以上、今年度「地域とともに育てる防災教育の在り方」というテーマの下、6つの取り組みを行ってまいりました。児童に防災意識・安全意識をもたせるため、今年度の取組を継続しつつ、さらなる取組を学校・地域・保護者が一体となつて行えるようにしていきたいと考えています。

学校・家庭・地域で取り組む 命を守る防災



- 講師 群馬大学大学院 理工学府教授・群馬大学広域首都圏防災研究センター長 片田 敏孝 先生
- 平成26年11月21日（金）●横浜市市民文化会館関内ホール ●参加者約400名

気象災害多発期に突入

日本は地震に加え気象災害が多い災害多発期に突入した感があります。御嶽山の噴火など、私たちは日々、様々な生活リスクに晒されています。

広島土砂災害がありました。深夜1時台になって突然、時間雨量約30mmの雨が降り始めました。この寸前の予報雨量は、1mmから1mm未満でした。雨が酷くなった1時15分に、土砂災害警戒情報が出されます。自治体に避難勧告を促す情報です。しかし、広島市役所や当該区役所は発令せず行政批判的になりました。

深夜のしかも豪雨の中、高齢者に避難所に来いというのは誰も躊躇します。最近の豪雨災害死亡者の4分の3は避難中の方、というデータもあります。結果的に、雨量は100mmに達し、各所で土砂災害が発生して甚大な被害になりました。ちなみに日本の気象予測技術は世界一です。子どもも含め、私たちは行政の勧告に命を委ねず、どのような行動をとるべきか、主体的に考えるほかありません。

今年7月の台風11・12号の豪雨も地球温暖化が原因です。南方の海水温度が高くなると水蒸気が発生し、この湿った空気を台風の風に沿ってポンプのように送り続けるからです。前線の位置などで全国どこでも局所豪雨が発生する可能性があり、予測は不可能です。

毎年襲来するスーパー台風

台風の巨大化による被害も深刻です。昨年、レイテ島で発生した台風30号の気圧は895hPaと900を切りました。室戸台風は911hPa、伊勢湾台風は930hPaです。からとんでもない気圧です。今年の19号台風も900hPaまで下がりました。

トラック諸島で発生し京都・嵐山に被害をもたらした台風18号は、気圧変動が特徴的です。近海の三重県尾鷲沖で最大の965hPaに急成長するという、かつてなかったことが頻発するようになりました。一昨年の15・16・17号は、順に910・900・905hPaと、これもスーパー台風でした。

同年春、気象研究所が「大型台風は今後10、20年単

位で発生する」との研究成果を発表しましたが、毎年発生しています。そして、「今後、850hPaを下回る台風が生じ得る」といい始めています。

津波防災の難しさ

津波防災を考えてみましょう。東日本大震災は衝撃的でした。釜石市は明治三陸大津波で、人口6500人中4000人が死亡しています。この時は、鶴住居小学校のところまで津波は到達していませんし、市のハザードマップでも浸水域外でした。

鉄筋コンクリート3階建てで耐震補強済みであり、地域の避難所にもなり得る建物でした。しかし、そこを16mの津波が襲来し、屋上を津波が抜けていきました。日本列島がある北米プレートに太平洋プレートが、1年間に8cmずつ沈み込み、太古の昔から100年ごとに巨大地震が発生しています。そうした事実から、次の地震・津波の発生も時間の問題でした。3・11でも避難勧告や津波警報が出ていましたが、住民は逃げませんでした。向こう30年間の巨大地震の発生は、宮城県沖では99%、釜石沖合は90%といわれていたのにです。

子どもたちに防災教育を始めたのは、大人たちへの啓発に徒労感があったからです。鶴住居小学校の子どもは、津波地域であることを知っていました。当初は、「逃げる。立派な堤防ができたから」といっていました。水深63m、海面上高を入れると70mの巨大湾口防波堤があります（ギネスブックに登録）。工期が30年、費用は1200億円で、市民一人当たりの負担額は300万円です。

「祖父ちゃんも父さんも逃げないから逃げない」ともいっていました。逃げないという常識を、安心してやっている親や地域、学校がこの子たちに与えたのです。それ以降、真剣に考えなかった高齢者大学の参加者に、「津波警報を無視して祖父ちゃんが逃げないから、孫が逃げないことを常識にしてしまう、それでいいのか？」と問い返しました。ここからお年寄りの意識が変わりました。

釜石市の命を守る防災教育

あの震災の日、釜石市は雪でした。午後2時46分、校庭にいた釜石東中学校サッカー部員の1、2年生は地

割れが走る中、校舎に「津波が来るぞー、逃げるぞー」と大声で呼びかけた後、隣接する鶴住居小学校に向かいます。ここでも大声で逃げるよう呼びかけて、高台へと走り去りました。

一方、中学校では、校庭に集まっていた中学生が、副校長の「早く逃げろ」の声に一齐に走り出しますが、彼らが偉いのはここからです。鶴住居小の校庭に走り込んで、「逃げるぞ！」と大声を張り上げたのです。鶴住居小では、耐震補強済みで雪も降っているからと、児童を3階に避難させていました。児童が中学生の逃げる様子を見て動揺しているところに、消防団員が来て津波が来るといったものですから、児童たちは堰を切ったように校庭に駆け下り中学生と手をつないで逃げ始めました。

「釜石の奇跡」といわれますが、1000人が亡くなり、管理下外だった子ども5人も死亡しています。唯一の救いは釜石の子どもたちが、津波が轟音を立てすべてを飲み込みながら背後に迫る中、恐怖におののきながらも懸命に逃げ延びたということです。最初の避難場所「ごぞいしょの里」で崖崩れの兆候を発見した中学生は、ここではまだ不十分だと教師に進言し、さらに高所へと再避難します。小学生のとき、モデル授業で安心は禁物と学んでいたのです。彼らは途上、鶴住居保育園児の誘導にも手を貸しています。16mの津波が迫るなか、1.7kmを子どもたちは逃げきったのです。

「僕、逃げるもん!」の防災教育

どんな防災教育が行われたか。釜石には34基もの津波記念碑があり、碑巡りから始めました。被災の度にこんな思いは自分たちで十分と、なけなしのお金を出し合って建立した先人の思いと、緩みきった地域の現状を見せながら、35基目の碑は建てたくないよねと話しました。無口になっていった子どもたちは次に会った時、碑の清掃活動を始めていました。さらに、保育園、小・中学校の合同避難訓練などの防災教育を、率先してやっていました。

一人暮らしが多い高齢者に対しても、リヤカーを引いて助ける練習をしていました。中学生に触発された地域のお年寄りたちは乳母車を引っ張り出して、精一杯歩く練習を始めました。鶴住居地域では600人の方が亡くなりましたが、「釜石の奇跡」と称されるこの子たちのこの行動は、釜石の防災教育（学校14、児童3000人）の成果でした。

「釜石の奇跡」は学校防災教育として、南海トラフ巨大地震で津波の被害が想定される新宮市や田辺市（和歌山県）、尾鷲市など各地に展開しています。釜石市内にある35基目の碑には、「ひゃっかいにげても からぶり



ばかり それでもこんども にげるんだ」と刻まれています。これを見た尾鷲の小学校教師はこの語句を挿入した歌「でんでんこ」を作りました。津波なんかで死ぬな、という先生の強い思いがダイレクトに伝わる歌です。一方、子どもたちは本当に逃げるだろうかとの懸念が残っていました。自分で逃げる子になれば、親も即時に逃げることができます。親に逃げる子だと信じさせることを宿題に出していました。僕が逃げればお母さんも逃げてくれると思ったから、あの時、彼らは必死で逃げたのです。

防災教育が最終的に目指しているのは、「僕、逃げるもん!」という主体的、内発的に行動判断できる子どもたちを育むことです。実効性のない防災教育は無意味です。「逃げろ」と100回連呼しても無駄です。

行動し続ける大人になれ!

兄弟と逃げたと知らず、子どもを探して津波に飲まれた母親、足の悪い祖父を助けに戻って亡くなった若者、舅の手を最後まで離さず波に消えていった嫁。人は人であるから逃げられないのです。それも全部乗り越えて初めて、犠牲者ゼロが達成できると思います。田辺市のある小学生の家庭では、3つのことを約束しました。「家族で決めた避難場所に必ず行く」「親も逃げる」「避難場所から動かない」です。中学校にも防災教育が広がっています。保育園とは交流を深め、寺の階段に手すりが必要だと市に陳情して設置が実現し、高齢者の逃げる動機の源になっています。

犠牲者を一人も出さないという共通の目標に向かって、学校・家庭・地域のみんなで前向きに努力する行為そのものが防災であり、その中で子どもたちを育むのが、防災教育だと思います。幾世代にも及ぶ中で自然災害の経験は薄れていきます。だから子どもたちに、大事なことは語り継ぐのではなくやり続ける大人になることだと話しています。



三行詩づくりを通して深める 家族のきずな



横浜市PTA連絡協議会

ね ら い

文部科学省・(公社)日本PTA全国協議会では、「たのしい子育て全国キャンペーン」の一環として三行詩コンクールを実施しています。親子の会話やコミュニケーションから育まれた家族の「きずな」、家庭でのルールや「早寝早起き朝ごはん」といった基本的な生活習慣づくりを、親子で一緒に取り組むことの大切さについて、日常のやりとりの中での発見や気づきを短文に表現した「三行詩」が対象です。横浜市PTA連絡協議会も独自のテーマを置いて作品を募集、優秀作品の中から対象作品を日Pに推薦しています。

第6回市P連三行詩コンクール

テーマ「我が家のルール」「家族のきずな」「命の大切さ」「食べる」

平成26年度は応募数1,125作品となり、多くの児童・生徒や保護者の方の参加がありました。市P連役員・常置委員と、横浜市教員委員会指導主事の協力を得て審査を行い、優秀作品の中から更に選ばれた15点が会長賞を受賞しました。

会 長 賞		
児童・生徒の部		一般の部
おとうさんが、 「とうこのおもさが、うれしいな。」って。 よし、もったべるぞ。 浅沼 貴子(西・東小1年) ママが悲しむか考えた 悪いこと できないな 尾崎 史弥(神奈川・幸ヶ谷小4年) もりもり、にっこり、朝ごはん。 元気ムクムクわいてきた。 なんでも、出来そう 今日のぼく。 川村 勇太(東・東中田小4年) 妹が泣く、僕が怒られる。 妹が笑う、僕がほめられる。 妹はかわいい。でも難しい。 扇田 凌太郎(都筑・山田小5年) 弟のね顔を見てると、 なんだかほんわかする。 思わず体中さわりたくなっちゃう。 おこしてごめんね。 神原 圭之介(都筑・茅ヶ崎台小5年)	おにぎりは 母のぶんしん おおえんだん 葛西 健斗(東・中和田小5年) 6年通った登校班 短い距離の父との会話 私の大切な小学校の思い出 盛田 優花(鶴見・潮田小6年) 横たわる 父に自然と むらがる家族 斉藤 未果(戸塚・東品濃小6年) 誰だこの靴でっかいなあ。 久しぶりに並べたら、 父より大きくなっていた。 他にもたくさん越えられるかな。 春鳩(都筑・茅ヶ崎中3年) ごめんなさい 言えた後にはお互いの 心の空に七色の橋 平川 永遠(南・南が丘中3年)	弟が「お姉ちゃん手をかして」と 十より大きいし算に 姉も一緒に手伝い 板橋 千浪(戸塚・汲沢小) 四肢マヒの 兄への声かけ忘れない 回復信じる弟の 優しい心 守りたい 成田 由美子(瀬谷・上瀬谷小) 気が付けば 私のそばでお手伝い あなたの成長感じては うれしさもあり さみしさもまた 渡辺 紗織(戸塚・平戸小) 叱られた末っ子が 歩きながらそっと手をつなぐ ちょっとうれしい叱った父さん 市村 亜紀子(保土ヶ谷・笹山小) もしもしの 声ですべてを悟られる 母は天下の名探偵 鳩ボッポ(旭・左近山中)

(すべて原文のまま)

ま と め

平成26年12月13日、横浜情報文化センターにて、多くの受賞者とその家族が参加して表彰式が開催されました。受賞者の作品への想いや背景などを聞き、家族への愛や願いを感じ、温かい気持ちになり、家族の大切さを再確認しました。優秀作品は作品集として市P連加盟校全校に配布すると共に、市P連ホームページに掲載し広く発信されます。三行詩という媒体を通して、家族のきずなをより深め子どもが安全に安心して暮らせるように、また市P連スローガンである「おとなも育とう、こどもと共に」の思いに立ち返ることを願い、今後も推進してまいります。

第29回 全国盲学校野球 (グランドソフトボール) 神奈川大会

横浜市立盲特別支援学校 星野 勉

「つかめ勝利！ 浜の風吹く 湘南の夏！」のスローガンを掲げ、8月20日～22日の3日間、神奈川県立平塚中等教育学校、平塚市立大原小学校を会場として開催されました。始打式には、元横浜ベイスターズの鈴木尚典選手が来てくださり、華を添えてくれました。

本大会は、神奈川県内にある三つの盲学校、神奈川県立平塚盲学校、横浜訓盲学院、横浜市立盲特別支援学校が主管しました。横浜市安全教育振興会より多大のご支援をいただき、無事大会を終えることができましたことを心より感謝申し上げます。

グランドソフトボールとは

グランドソフトボールは、全盲のプレイヤー4名と弱視のプレイヤー6名の計10名でチームを作ります。ショート、2塁の他に「ライトショート」を置きます。また、全盲プレイヤーはアイマスクをしており、ピッチャーは必ず全盲と決まっています。

グランドには守備用（普通）のダイヤモンドの外側にランナー用の大きなダイヤモンドが2重に引かれ、四角に大きなランナー用ベースが設置されています。

全盲のピッチャーが弱視の捕手めがけてハンドボールを転がします。ボールには鈴は入っていないので転がる音だけを聞いて、打者が打ちます。全盲の打者がボールを打った場合、1塁コーチの拍手の音をたよりにランナー用のベースに向か

って走ります。一方守備は、全盲の野手がボールを取ればフライと同じでその場でアウトとなり、弱視の野手がボールを取れば、守備用の一塁にボールを投げ、打者がランナー用一塁に着くより早ければアウトになります。目の見えにくい者と見えにくい者が安全にプレイできるルールが工夫されています。

全国盲学校野球大会成績

全国盲学校野球大会は、全国8地区の予選を勝ち抜いたチームに開催県の1チームを加えた9チームで争われます。前日は、移動と公式練習、抽選会が行われます。一日目は、3チームずつに分かれてブロック予選を行います。各ブロックの1位チームと2位チームの中から成績の良かった1チーム、計4チームが二日目の決勝トーナメントを戦います。

神奈川大会の結果は、次の通りです。

が行われませんでした。3年ぶりに優勝校も決まり、優秀選手等も選出されました。

神奈川県選抜チーム

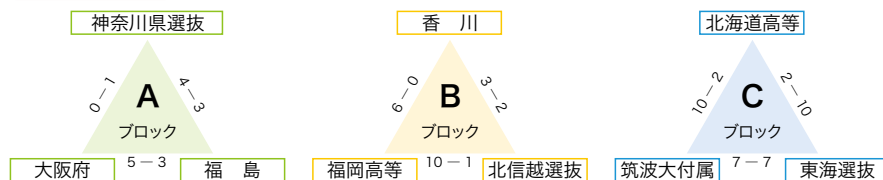
横浜は盲人野球発祥の地です。1933年横浜公園運動場で第9回全国盲学校学生競技大会が開催され、この大会で初めて、東京盲学校と横浜訓盲院との盲人野球試合が行われた記録があります。



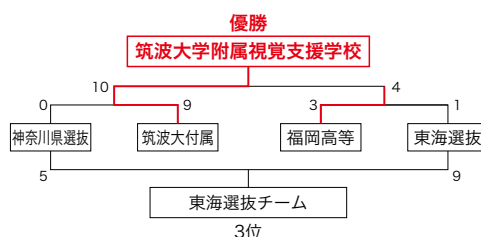
写真は神奈川県選抜チームが入場する様子です。その帽子には「神」の一文字があらわれ、ブロック予選では、優勝候補を破ってまさかの一位通過。公式戦4試合を戦い、観客を興奮の渦に巻き込みました。酷暑の中、仲間を信じて全力でプレーする姿は、見る者に大きな感動を呼びました。大会が盛会の内に無事終了し、この素晴らしい体験が参加した選手たちそれぞれの

人生の宝物になったことを報告いたします。

1日目 予選ブロック



2日目 決勝トーナメント



- 優勝 筑波大学附属視覚支援学校
- 準優勝 福岡高等特別支援学校
- 第3位 東海選抜チーム
- 第4位 神奈川県選抜チーム

27回大阪大会と28回石川大会は、天候に恵まれず、決勝トーナメント

人生の宝物になったことを報告いたします。

第 28 回

「健康と安全」ポスター展

- 展示期間：平成26年12月17日（水）～平成26年12月21日（日）
- 展示会場：横浜情報文化センター
- 応募点数：355点 ● 受賞作品：特別賞16点 入選19点 佳作20点
- 審査委員：横浜市立中学校美術研究会会長 長澤 博昭 先生（横浜市立芹が谷中学校長）
横浜市立小学校図画工作研究会会長 菅原 恵市 先生（横浜市立東山田小学校長）

横浜市長賞



よくねて よくたべ よくあそぶ
綱島小学校3年 鈴木 南央

みんなで囲む楽しい食卓
新田中学校1年 山口 凜



横浜市教育局 教育委員長賞



早寝 早起き 朝ごはん
飯田北いちよう小学校6年 若林 花音

大切にしよう 家族の和
小山台中学校2年 熊田 悠



横浜市教育局 教育長賞



ささえあう みんなの手 家族の笑顔
さわの里小学校6年 宇田川 愛以

体に栄養 あたえよう!!
左近山中学校2年 柳原 菜々美



一般財団法人 横浜市安全教育振興会 理事長賞



思いやりの種

間門小学校5年 横山 祐貴



きけん 歩きスマホ

桂台小学校6年
片桐 琉



食べすぎ NO

藤の木中学校2年
秋山 美保



帰れない

藤の木中学校3年
狩野 汐里

横浜市PTA連絡協議会 会長賞



あかるいかてい

菅田小学校1年 橋見 優奈



大きな手で包んであげて

藤の木中学校2年
森 彩香



危険薬物

洋光台第二中学校3年
齋藤 初香

神奈川新聞社賞



STOP 温だん化

白幡小学校5年
徳永 創太



虫菌に気をつけよう

下末吉小学校6年 谷岡 美空



自然を守ろう

浜中学校2年 荻原 舞

加入状況

平成26年度加入状況

校 種	賛助会員数	世帯数
小 学 校	337	144,187
中 学 校	133	67,930
高 等 学 校	5	4,208
特別支援学校	12	1,450
総 計	487	217,775

(小学校には、横国大附属横浜小が含まれる)

平成26年度 評議員名簿

氏 名	備 考
伊東裕子	市教委 総務課 総務課長
井上菜穂子	校長会代表
坂本明子	東部地区代表
高柳陽子	南部地区代表
田代勝史	西部地区代表
矢崎京子	北部地区代表
相原和行	横浜市PTA連絡協議会代表
野澤真二	横浜市PTA連絡協議会代表

平成26年度役員・審査委員名簿

役 職	氏 名	備 考	
理事長	齋藤 武彦	学識経験者	○
副理事長	遠藤志津江	学識経験者	○
副理事長	中村 正孝	学識経験者	○
専務理事	山元 泰弘	安振会事務局長	○
常務理事	横田 竜一	学識経験者	○
理 事	鳥山 克佳	医師（市医師会推薦）	○
理 事	大平 力	学識経験者	
理 事	三枝木鉄朗	学識経験者	
理 事	青木俊太郎	学識経験者	
理 事	竹本 靖代	学識経験者	
理 事	栗原 秀泰	学識経験者	
理 事	永池 啓子	小学校長会代表	○
理 事	出川 進	中学校長会代表	○
理 事	梶川 純	特別支援学校長会代表	
理 事	森川 智之	横浜市PTA連絡協議会会長	○
理 事	生田 麻實	横浜市PTA連絡協議会副会長	○
理 事	亀澤 好子	横浜市PTA連絡協議会副会長	
監 事	住田 昌治	小学校長会代表	
監 事	星川 薫	横浜市PTA連絡協議会会計	
審査委員	戸塚 武和	横浜市医師会推薦	
審査委員	神保 裕紀	横浜市歯科医師会推薦	

○印は審査委員兼務

見舞金等の給付

平成26年度 上期 旧 見舞金給付一覧

(平成26年4月1日～平成26年9月30日) (単位) 円

給付別種・事由・対象			給付件数	給付額
1 児童生徒 事故見舞金	(1) 傷害事故	児童	8	144,620
		生徒	2	17,700
	(2) 障害	児童	1	47,200
		生徒	0	0
	(3) 交通事故	児童	1	3,000
		生徒	0	0
小 計			12	212,520
2 児童生徒 弔慰金	(1) 学校管理下外 事故死	児童	0	0
		生徒	0	0
	(2) 交通事故	児童	0	0
		生徒	0	0
	(3) 登下校中の 交通事故死	児童	0	0
		生徒	0	0
(4) 供花料等	児童	0	0	
	生徒	0	0	
小 計			0	0
3 保護者供花料	小学校	0	0	
	中学校	0	0	
	高校・特別支援	0	0	
小 計			0	0
4 PTA 主催見舞金	(1) 傷害事故		0	0
	(2) 障害		0	0
	(3) 交通事故		0	0
	(4) 事故死		0	0
	(5) 往復途次の交通事故死		0	0
	(6) 病死等		0	0
小 計			0	0
合 計			12	212,520
振込手数料			12	4,320
その他手数料			0	0
総 計				216,840

平成26年度 上期 共済 見舞金給付一覧

(平成26年4月1日～平成26年9月30日) (単位) 円

給付別種・事由・対象			給付件数	給付額
1 児童生徒 事故見舞金	(1) 傷害事故	児 童	1,079	12,413,537
		生 徒	92	1,107,475
	(2) 障害	児 童	2	87,600
		生 徒	0	0
	(3) 交通事故	児 童	36	117,860
生 徒		9	27,000	
小 計			1,218	13,753,472
2 児童生徒 慰金	(1) 学校管理下外 事故死	児 童	1	500,000
		生 徒	1	500,000
	(2) 交通事故	児 童	0	0
		生 徒	0	0
	(3) 登下校中の 交通事故死	児 童	0	0
		生 徒	0	0
(4) 供花料等	児 童	26	96,630	
	生 徒	5	38,560	
小 計			33	1,135,190
3 保護者供花料	小学校	27	810,000	
	中学校	35	1,050,000	
	高校・特別支援	7	210,000	
	小 計	69	2,070,000	
4 PTA 主催共済金	(1) 傷害事故		12	268,220
	(2) 障害		0	0
	(3) 交通事故		0	0
	(4) 事故死		0	0
	(5) 往復途次の交通事故死		0	0
	(6) 病死等		0	0
	小 計		12	268,220
合 計			1,332	17,226,882
振込手数料			980	309,528
その他手数料			0	0
総 計				17,536,410

旧 見舞金…平成25年度一般財団移行以前の見舞金申請・給付分

平成26年度修学奨励金の給付

小学校	156人
中学校	50人
高等学校	6人
特別支援学校	12人
計	224人
	7,460,000円

(給付額は小学生3万円、中学生4万円、高校生5万円)

会報の発行

第36号 平成27年2月25日 加入校全世帯へ配布

安全教育推進団体に対する助成

申請のあった単位PTAに対する助成	1校4万円(上限)	(円)
区・部会PTA講演会研修会等助成	378校	14,815,952
横浜市PTA連絡協議会事業助成		3,688,000
横浜市立小学校長会「専門研究事業」		2,550,000
第31回横浜港カッターレース		300,000
第21回若者の飲酒を考えるフォーラム		100,000
第12回学校給食展示会		150,000
第19回野島クリスマスキャンプ2014		200,000
第12回横浜市立小学校タグラグビー交流会		200,000
(社)横浜勤労青少年福祉協会「夏休みお楽しみ教室」		200,000
関東聾教育研究大会定例研究大会		100,000
第29回全国盲学校野球大会		100,000
磯子区小中学校インディアカ大会		300,000
横浜市健民少年団「夏期宿泊訓練会」		50,000
横浜市特別支援学校人権教育推進協議会研修会		30,000
		50,000

(平成26年12月現在)

区・部会講演会研修会の開催

★各区・部会において、次の講演会研修会が開催されました。

区名	開催日	事業名	会場	講師
鶴見	11/15(土)	講演会「片付けられる親になる片付けられる子どもを育てる」	鶴見公会堂	古堅 純子
神奈川	11/30(日)	講演会「地球ステージ」	神奈川公会堂	桑山 紀彦
西	2/20(金)	講演会「今時の子どもたちのネット・ケータイ」～子どもたちのトラブルと背景～	西公会堂	吉岡 良平
中	10/23(水)	スポーツ文化交流会「ストレッチヨガ」	山元小学校体育館	
	1/23(金)	講演会「金澤翔子さん泰子さんのお話」	横浜市技能文化会館	金澤翔子・金澤 泰子
南	1/31(土)	第2回研修会「やる気アップは勉強しやすい部屋から」	南公会堂	喜々 立子
港南	9/25(木)	講演会「君をいじめから守る」～涙と笑いの一人芝居～	港南公会堂	福永 宅司
保土ヶ谷	12/9(火)	講演会「世界から見た日本」	保土ヶ谷公会堂	渡部 陽一
旭	12/5(金)	講演会「ウタガタリ」	瀬谷公会堂	足立 紫帆
磯子	2/2(月)	講演会「ハートフルコミュニケーション」	磯子公会堂	菅原 裕子
金沢	11/25(火)	講演会「子どもの元気・活気・勇気を引き出すコミュニケーション～スポーツから学ぶベップトープとは～」	金沢公会堂	岩崎 由純
港北	1/20(火)	講演会「サザエさん一家は幸福見つけた達人ぞろい」	港北公会堂	増岡 弘
緑	1/22(木)	講演会「レモンさんのPTA爆談Part2」	みどりアートパーク	山本 シュウ
青葉	10/30(木)	講演会「活き活きとした人間を育てる為の3つの秘密」	青葉公会堂	坪田 信貴
都筑	12/9(火)	講演会「幸せな人生は人の役に立つこと～知的障がい者に導かれた企業経営から～」	都筑公会堂	大山 泰弘
戸塚	12/12(金)	講演会「腹話術ゴローちゃん」	戸塚公会堂	しろたに まもる
		「戸塚密着型シンガーソングライター Kahoさんミニコンサート」		Kaho
栄	12/5(金)	講演会「みんな一緒に」～障がい児・者の人権～	栄公会堂	日浦 美智江
	11/8(土)	講演会「小さな命を救いたい 新生児医療の現場から」	泉公会堂	豊島 勝昭
泉	12/6(土)	研修・意見交換会 講演「横浜市教育振興基本計画」 「学校におけるPTA活動」	JA横浜みなみ総合センター	山手 英樹・竹本 靖代
		各ブロック交流会	各ブロック担当校	
瀬谷	11/27(木)	講演会「2時間で磨くコミュニケーション能力～大きな耳と、丁寧な口を持って～」	瀬谷公会堂	相浦 やよい
高校	6/13(金)	講演会「夢は果てしなく永遠に」	メルパルクYOKOHAMA	池谷 幸雄
	11/10(月)	講演会「ともに育つ地球市民」	鶴見公会堂	小山内 美江子
特別支援	1/13(火)	講演会「きょうだい児に家庭内で出来る心のケア」	若葉台特別支援学校	松丘 昌三

平成26年度 安全教室の開催

会場：横浜市民防災センター

日時	回	防災安全教室 9:50～11:50	回	救急救命法教室 9:00～12:00
平成26年 7月10日(木)	1	45名	1	19名
平成26年 7月23日(水)	2	17名	2	20名
平成26年 9月 5日(金)	3	49名	3	19名
平成26年10月 3日(金)	4	40名	4	18名
平成26年10月10日(金)	5	51名	5	20名
平成26年11月12日(水)	6	32名	6	16名
計		234名		112名

防災安全教室

【内 容】

- 防災講話
- 地震体験
- 暗闇体験
- 煙体験
- 展示コーナー見学

救急救命法教室

【内 容】

- 普通救命講習
- 心肺蘇生法
- 「AED」の取扱い方法
- 止血法

平成26年度 賠償事故状況概要

(12月末日現在)

総 数	校 内		校 外		ガラス破損	車損傷	メガネ損傷		対人事故	その他		
233件	59件		174件		34件	67件	34件		59件	39件		
ガラス破損の内訳						車損傷の原因				自転車事故の内訳		
校内 13件			校外 21件			自 転 車				対 人		
小学校	中学校	特別支援学校	小学校	中学校	特別支援学校	28件	ボール	石	その他	対車	対人	その他
9件	4件	0件	17件	4件	0件							

安全教育団体に対する助成

各団体における活動の一コマ

横浜市PTA連絡協議会

事業名 ▶ 第31回山下公園ファミリー写生大会
実施日 ▶ 平成26年4月27日(日)
展覧会 ▶ 平成26年6月6日(金)～6月10日(火)
表彰式 ▶ 平成26年6月7日(土)
場所 ▶ 山下公園(写生大会)
 クロス・パティオ(展覧会)
 横浜市健康福祉センター ホール(表彰式)
参加者 ▶ 約20,000名

今年も晴天のもと、受付開始前から長蛇の列となり少し時間を早めて画用紙を配布しました。
 この時期、山下公園では花壇展も開催されており、公園は大勢の人でいっぱいでした。そうした中、家族で参加された方も多く、昼食をはさんでのびのびと絵を描いている様子は本当にほほえましいものでした。日本で最大規模の写生大会と聞きますが今後も大切に継続していきたいと思います。



区・部講演会・研修会助成 (区研修会事例)

事例 ▶ 都筑区PTA連絡協議会合同研修会
事業 ▶ 「幸せな人生は人の役に立つこと」
講師 ▶ 大山泰弘氏
実施日 ▶ 平成26年12月9日(火)
会場 ▶ 都筑公会堂

全従業員の70%が知的障がい者という日本理化学工業会長の大山氏は、ある日、お坊さんから「人間の究極の幸せは、愛されること、ほめられること、人の役に立つこと、人に必要とされること。愛されること以外の幸せは働くことで満たされる。」と教わったことから知的障がい者雇用を進めていきました。

人生にも経営にも関わる重要なことを知的障がい者に導かれたと語る大山氏の言葉は、聴いているみなさんの心に響いている様子でした。



単P事業助成 (小学校事例)

事例 ▶ 横浜市立大道小学校
事業 ▶ 詩集展と心のふれあいコンサート
実施日 ▶ 平成26年7月7日(月)～18日(金)

不慮の事故により高校1年生(16歳)の若さで亡くなった堀明子さんは、幼いころより自然を観察することが大好きで、それらを題材にしたたくさんの詩や絵を遺しました。それらは、ご両親により詩集「四季の色」として出版されました。今回はそれらの詩をパネルにして展示しました。豊かな感性で綴られた一遍一遍の詩に、子ども達は見入っていました。詩集展の最終日には、「心のふれあいコンサート」を開きました。明子さんの詩を曲にして、演奏されました。



単P事業助成 (中学校事例)

事例 ▶ 横浜市立希望が丘中学校
事業名 ▶ 「中高生のお弁当作り講座」
実施日 ▶ 平成26年9月30日(火)

希望が丘中学校では、生涯学習センターより講師を招き、子どもの栄養を考えたお弁当作りの調理実習講座を開催いたしました。

新しいレシピを得たり、作りおきのおかずのアレンジを学んだり、実り多い内容で参加の父母らから好評をいただきました。何よりも「親が手をかけて料理をする姿が、思春期の子どもの心身にとってとても大切である。」という講話は、参加者の心に残りました。



横浜市健民少年団夏期宿泊訓練会

実施日 ▶ 平成26年8月22日(金)～24日(日)

毎年、実施している夏期宿泊訓練会。今年は千葉県大原で民宿に泊まり、海水浴をしながら、野外での昼食作りやクラフトの製作を行い、グループで砂や光の芸術を作り上げ、海の博物館で「房総

の海と自然」について勉強しました。

参加したのは、小学校2年生からの団員と指導者の29名で、団員達は、グループごとに一つの部屋に泊まり、団体行動のルールも学びました。



第19回野島クリスマスキャンプ2014

場所 ▶ 横浜市野島青少年研修センター
日時 ▶ ふれあいの会 平成26年11月24日(月)
 キャンプ当日 平成26年12月6日(土)～7日(日)
参加 ▶ ふれあいの会 児童生徒・保護者・ボランティア等109名参加
 キャンプ当日 児童生徒・保護者・ボランティア等173名参加
 宿泊143名

活動内容 ▶ ふれあいの会は、ボランティアと交流した後、(株)鳥勝提供のチキンカレーを保護者が作り会食。
 キャンプ当日は受付後、ボランティアと共に津波対応の避難訓練で展

望台に。開会式で自己紹介。そして、楽しみなディナーづくり。
 クリスマスらしい飾り付けのローストチキンをボランティアと共に舌鼓。

今年のキャンドルは金沢中学校弦楽部の出演。演奏に合わせて楽しく歌ったり踊ったり楽しんだ。

2日目の親子活動は打出庵大黒屋の指導で和菓子作りと抹茶体験、日本文化にふれた。

野島クリスマスは安振会をはじめ多くの方々に支えられて続けられていることに心より感謝します。

